（別紙4）　　平成　24　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4390800128		
法人名	医療法人社団　三森会		
事業所名	グループホーム　ほたるの里		
所在地	熊本県山鹿市久原5623－1		
自己評価作成日	平成24年7月18日	評価結果市町村受理日	平成24年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205号
訪問調査日	平成24年8月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

尊厳の尊重を理念に掲げて、一人ひとりの人格に配慮したケアの実践に取り組み、スタッフ全員が接遇に対して心がけ、研修を重ねている。また、残存能力を生かして、出来ることに対して“出来ること”“楽しみ”を継続できるように援助していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開設1年を過ぎたばかりのホームであるが、99歳を筆頭に平均年齢90歳以上であり、在宅酸素利用者等重度化傾向の中にあっても心身の状況や特性の把握に努め、主体性を尊重した和やかな生活を支援している。入居者・家族・地域・職員との協力体制の強化を図る新管理者の思いは、ホーム行事を通じた地域への啓発や運営推進会議が相乗効果となり、保育園児との交流や小学生の訪問、老人会や近隣住民との交流、ボランティアの訪問等となって表れている。入居者同士お互いを思いやる姿や職員の寄り添いのケアはグループケアの良さとなり、落ち着いた生活や職員のかかわりの深さは介護度3が1となる等職員の持つ経験や資格を活かした質の高いケアであることが窺われる。日々のヒヤリ・ハットの事例検討や、母体である病院との連携は高齢化の中で入居者・家族への安心感となっている。今後、ホームのケア実践を通じ、地域での認知症ケア啓発の一環となることを大いに期待したい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

事業所名:グループホーム　ほたるの里

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	業務日誌に事業所の理念を貼り申し送り時にスタッフ全員で唱和し、常に意識を持って介護にあたるように共有している。	「家庭的な環境」の提供と「安心感」の醸成、「残存能力を活かした生活」の推進、「尊厳ある生活」の重視、「地域とのつながり」を理念として、新管理者のもと、理念の持つ意義の共有化に唱和や業務日誌へ添付している。また、日常の生活の中で理念に即したケアを実践する為その都度考えていくことを心構えとして心を一つにケアに取り組んでいる。	入居者及び家族・職員・地域との協力体制の促進等理念を下にした体制は大いに評価したい。今後、開設時からのケアを振り返りる機会を作り、外部評価での課題等全員で検討いただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での清掃活動や学校、保育園との交流を大切に、ホームでの活動、行事には積極的に声かけを行っている。近隣の方には、ホームで採れた野菜、手作り団子等入居者と一緒に配っている。	自治会へ加入し初寄り合い（総会）への参加や回覧板の受け渡しにより顔見知りとなり、美化活動（清掃やごみ集積所当番等）参加、野菜や団子等のおすそ分け等地域の一員になるべく努めている。ホーム行事を通じて啓発に取り組み、保育園児との七夕飾り作りや小学生との交流の他、地域のボランティア（フラダンスやひょっとこ踊り等）の訪問による交流等を行っている。子ども110番として登下校の見守り役となり、夏休みには近くの子どもたちの明るい声がホームにこまだするホームである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園、小学校との交流会や事業所の行事等近隣の方へ呼びかけを行ない、参加して頂き、理解を得られるように活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に自治会長、サポートリーダー、家族、山鹿市包括センターの方に参加助言を得てAEDを設置した。次回は、認知症の理解を深めてることもあり、事例を発表していく事で家族に了承を得ている。	23年5月より2ヶ月毎行政・自治会からは会と副会長、老人会長、民生委員、家族・入居者と十分なメンバー構成で開催している。活発な質疑応答や意見交換であり、この会議が相乗効果となり地域との交流促進に繋がっている。また、委員の助言によるAED設置や、次回は行政からの要請で事例発表により認知症ケア啓発に取り組む意向である。	家族全員への議事録の送付等透明性の有る運営体制であることや、地域との交流拡大等効果的な会議として活かされていることが窺われる。初めての自己・外部評価受審であり、課題改善に向け、運営推進会議の中で検討されることが期待される。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、市より記録の仕方様式について相談し、助言を得るなど協力をいただいている。	行政監査時の課題項目を相談したり、運営推進会議での意見等によりケアサービスに反映させている。ホーム行事への参加もあり、職員も市が行う認知症サポートリーダー養成研修に参加している。	行政との協力関係は運営推進会議への助言や提案等に表れている。更に認知症サポートリーダー養成研修に参加した職員により、行政と協力しながら認知症ケア啓発に取り組まれることを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は自由に出入りできるように玄関、ホール内は施錠はしていない。	外部研修への参加や資料の回覧により全員が拘束及び虐待について学んでいる。帰宅願望や外出傾向等個別の状況を把握し、見守りや所在確認を徹底し、散歩に出かけたり、ドライブ等で気分転換を図り、徘徊される方に職員が付き添う姿が確認され、抑圧感のない自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	スタッフ間の連絡、申し送りで事例を報告し、言葉の暴力がないように接遇面に配慮している。又、入浴時には体に異常がないかボディチェックし異常の発見に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ全員に資料を配布しているが、今後も継続して学習会や研修会には参加をしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用希望の連絡があった際は建物の構造を説明し案内するとともに、入居されている雰囲気を感じて頂き、利用料金は一覧表を用いてわかりやすいように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加してもらったり、家族の面会時に意見や要望を聞き入れている。	家族の来訪時や運営推進会議参加時等意見や要望を聞く大事な機会と捉え、ホーム側から意見等がないか尋ねており、家族からは感謝の言葉が出され、遠方の家族にはTELによる情報交換を行い、ケアサービスに反映させている。ホーム内外の苦情相談窓口を明示し、入居時に家族に説明しているが苦情は出されていない。	夏祭り等行事には家族の参加もあり、意見や要望の収集に意箱の設置や、家族同士の交流の場を企画し、家族会の立ち上げとなるよう尽力いただきたい。今後も家族の忌憚無い意見や要望をホーム運営に反映されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映		毎日午後のミニカンファレンスで業務の問題	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月１回の定例会議を行ない１人１人の意見を聞き業務に反映している。又午後のカンファレンスの時間（20分～30分）に緊急課題が発生した場合は解決に向け提案する。	点を話し合い、毎月の定例会議には全職員に意見や提案を求めて、職員からケア中心の提案が出されている。また、リーダー、介護関係、防災等担当制により責任感ある業務体制がモチベーションとなり、明るく自信を持ったケアに取り組み、トイレや浴室の手すり等改善されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格所持者は給与に反映してやりがいとなり、スタッフの努力、向上心につながるように評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	役割をスタッフ全員に割り振り責任感を持たせると共に研修に参加してもらい伝達報告してスタッフ全員で共有していけるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山鹿市、菊池市のグループホーム事業所の関係者及び研修会には積極的に参加し，人脈を広げ情報交換、意見交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族の面会時、本人とのかかわりを大切にし、利用者の行動状態を把握し不安を軽減できるように信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの状況を聞き、信頼関係を保てるように担当者が要望や困っていることを尋ねて安心して頂くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスが必要であればそれに応えられるように家族の方との連絡をし対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係			

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に暮らしているという気持ちを持って、1人1人の人格を持たれた人生の先輩としての尊敬を持って接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも行事に参加、協力をして貰い交流を深めていく事で入所後の状況も理解して頂き、良い関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時ゆっくりとした時間と会話が出来るように部屋に写真を飾りったり、馴染の場所にドライブに出かけたりしている。	家族・親類等との関係を重視し、居室でゆっくりとした時間を作り、仏事に自宅に帰ったり、盆・正月には仏様参りや墓参等家族の協力を得ながら、これまでの馴染みの継続に努めている。入院先の友人の見舞いに出かける方等もあり、入居者同士アイコンタクトを取ったり、お互いが気遣う姿等馴染みの関係が確認できた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゆっくり出来るような雰囲気作りに努めるとともに、それぞれの居場所を大切にし、トラブルが起きないように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後入院された方は面会に行き家族と共に精神的ﾌｫﾛｰに努めている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の意向を聞きなるべく希望や要望に沿えるように努力している。リハビリなど希望される方は病院まで送迎している。	日常の会話の中で本人の思いを引き出し、発語困難な入居者にもしっかりと耳を傾け、生活歴や個々の思いを把握するため家族と話し合い、プランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握			

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の人生史を記入して貰い、人物像をつかんでその方に応じた過ごし方をして頂けるように情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌、スタッフからの情報で、1日のすごし方や心身の状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を出来るだけ確認した上でスタッフからの情報を集め、介護計画を作成している。	アセスメント、3ヵ月毎のモニタリングをもとに、本人や家族の意向、要望を取り入れた具体的な介護計画を作成している。個々の問題点や課題等を把握した詳細な援助メニューを立て、午後の時間帯にヒヤリ・ハット事例検討等を行っており職員の観察力を活かしたプランである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月個人記録、申し送りなどでスタッフからの情報を共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出外泊も家族と本人の希望を取り入れ本人のニーズに対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園、小学校との交流を持ち夏祭りなどを計画して地域と交流を深め豊かな暮らしが出来るように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援		母体医療機関をかかりつけ医としており、毎	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日バイタルをチェックし主治医に報告し、必要に応じ指示をもらっている。	母体医療機関をかかりつけ医としており、毎月の定期往診の他、バイタルや状態を毎日主治医に報告し指示を仰ぐ等異常の早期発見に努めている。又、他科受診や訪問歯科等家族と連絡を取り合いホームで個別に対応している。訪問看護・訪問歯科の採用や、看護師として経験豊富な管理者の存在、歯科衛生士等の職員の存在は99歳を筆頭として平均年齢90歳以上という状況にあるホームの強みである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	午前中にバイタルチェックし、午後の入浴時皮膚の観察をして、異常があったら病院へ連絡し指示を受け、外来受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院または転院時、お見舞いを兼ね入院その後の経過を先生や病棟婦長に訪ねるなど、情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当グループホームとしては「看取り」はしておらず、入所時の契約時に説明了解を得ている。重症化した場合病院で診て頂いている。	重度化・看取り指針を作成し、入居時に説明を行い同意を交わしている。現在、看取りは行われておらず、重度化した場合は医療機関との連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニアルを作成してあり、年2回の訓練の内1回は救急隊から実技を加えた救急法をスタッフ全員が習得し、対応できるように今後も継続して学んでいく予定である。		
35	(13)	○災害対策			

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災マニアルを作成して、春、秋に地域住民の方にも参加して頂き、火災訓練をを行なった。避難訓練から消火器の使い方を実演をして全スタッフが避難に際しての機敏な対応が出来るような継続的訓練が必要である。	総合訓練には運営推進会議委員や消防団・近隣住民・家族等が参加し、消火器使用や緊急甦生の方法を実習する等、地域と一体となった有意義な訓練を行なっている。定期的な設備点検の実施、災害時マニュアルの整備や近隣住民が入った連絡網等、有事に向けて取り組んでいる。	夜間想定の訓練を取り入れていきたいとしており、今後もホームでできる地域貢献（AED設置等）をアピールし、地域との相互協力関係が強固なものとなる事を期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応で不愉快な思いをされないように接遇面でその場面に遭遇したら、ヒヤリハッとを書いて貰いスタッフに振り返りをして貰う。尊重した言葉使いをすることや、入浴の声かけもプライバシーが保たれるように心がけている。	尊厳の重視を理念に掲げ、一人ひとりの人格に配慮したケアの実践に取り組んでいる。表情を持った会話を心がけ、言葉使いは会議やヒヤリハットに上げ、全員で検討し、接遇マニュアルや研修で意識付けを行っている。 又、プライバシーの確保に努め、居室入り口にのれんを付けるなど希望に応じた対応や、守秘義務を遵守し書類管理に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り入居者が過ごしたい場所でのんびりしたいように本人の意思を尊重し、1日の日課表は作っておらず、レクレーｼｮﾝへの参加の有無は本人の意思に任せているが、好みは取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中の過ごし方起床、就寝などは利用者が好きな時好きな時間に行なってもらい、利用者の気持ちを最優先に考え強制的に促すことはしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣、入浴時の衣類は本人好みで選んでもらっている。散髪は2ヶ月に1回は地域の床屋さんからの出張してもらい身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援			

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方に野菜の皮剥き、米とぎ、後片ずけなど徐々に出来る事を見つけ手伝っていただいている。	入居者は座位でできる下ごしらえや下膳等できる事を一緒に行い、団子作りは回想法として活かされ、職員との会話も弾み和やかな食事準備となっている。入居者と相談しながら食べやすい大きさに切り分けたり、職員は同じ食事を共に摂り、会話で食の進み具合を見守っている。家族を招待した誕生会には好物のメニューや刺身等、工夫を凝らしてる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立をもとに調理し2度炊き、刻み食なども工夫している。摂取量のチェック、体重のチェック表、排便、排尿のチェック表を作成し1人1人に合わせた分量を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後1人1人に声かけをして、磨き残しがないようにチェックして治療が必要な場合、訪問歯科にも来ていただき適切な処置が出来るように努力している。入れ歯は週2回ポリデントに浸す。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作り排泄パターンを把握して声かけ誘導を行なう。便秘を予防するため先生に相談の上下剤を使用することもある。	詳細な排泄チェックでパターンを把握し、時間・表情や行動の確認により昼間は全員をトイレに誘導している。個々に応じた下着の使用や、下肢筋力低下防止によりトイレでの排泄を支援する事で排泄用品の減少となり、夜間は安全面からポータブルの使用も有る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作りパターンをつかみ水分補給や必要時は下剤を使用。便秘の為の食事の工夫は今後必要と考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援		一日おきの頻度を目途に、一番風呂希望へ	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は交替で1日おきに決まっているが、希望を聞いて本人決めて頂き、心身共にゆっくりできるように個人のペースで介助も行なっている。	一日おきの頻度を目途に、一番風呂希望への対応や拒否への声かけの工夫等個々に応じ支援している。浴室に新たに手すりを設置したり、1対1で寛いだ支援となるように職員の勤務時間の見直しを行い、より安心な介助や見守り体制により入浴を支援している。また、汚染時にはシャワー浴等適宜支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人本位の支援に心がけ、居室、ｿﾌｧｰ、椅子など個人の気に入られた場所で過ごして頂き、寝具を干したり、シーツ交換を定期的に行なっている。又室温湿度にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、目的、用法、容量などについてはもっと理解しておくようにしたい。服薬に対しては、3名で確認し個々に分けている。のみ残しがないように薬袋は捨てず、チェックして捨てるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の楽しみを把握するために生活歴の資料を作り、体操、ゲーム、カラオケ、色塗りなど好きな事をし、豊かな日々を過ごして頂くように努めているが、情報不足でもあり今後も力を入れていきたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や体調を見て散歩などに出かけるようにしている。戸外に出ることで気分転換を図られるため、今後も継続しての計画を立てている。	近隣の散歩や庭での外気浴、季節毎の花見、植木市等には法人の車を利用し家族やボランティアの協力を得たり、運営推進会議委員からの情報によりホタル見物に出かけている。希望に沿った外出や、家族の帰省に合わせ自宅に帰る入居者等様々な外出を支援している。	高齢化・重度化にあるなか、家族やボランティアの協力による外出支援は大いに評価出来る。今後も家族や地域の力を得ながら継続されることを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援	外出の時には預り金利用し、好きな物を購		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の時には預り金利用し、好きな物を購入してもらえるように配慮しているが、今後は近所のお店での買い物が定期的に本人が出来るようにしていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご本人の希望があればいつでもかけて差し上げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事（お雛様、五月人形、七夕飾り）を飾り、玄関、ホールには生け花を絶やさないように活けて季節感を目で楽しまれて頂くようにしている。	住宅地の中にある新築でバリアフリーが行届いたホームは、高い天井に空気取りの窓を配し開放感に満ち、リビングを中心に居室が左右に広がり、長い廊下は下肢筋力維持に繋げている。ソファや和室は休憩の場となり、デッキからの庭の菜園や花畑、室内の生け花や季節毎の飾り等四季の移ろいを感じる事が出来、温湿度管理がされ、清潔で快適な共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地良く過ごして頂くようにｿﾌｧｰや和室で思い思いに過ごせるように進めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や使い慣れたものを持ってきていただき住み慣れた空間つくりを作り安心感や居心地良く過ごして頂けるように心がけている。	入居時に使い慣れた品物の持ち込みの必要性を説明し、布団やチェスト・家族写真・趣味のCDやラジカセ等が持ち込まれている。洗面台が設置され、収納に片付けたり、造り付けの棚には日頃必要な物を置く等一人ひとりの居室となっている。窓際に植えられたゴーヤの緑のカーテンは涼しげで収穫の喜びを与えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の出来る事を把握することに努め、新聞折、洗濯たたみ、野菜の皮むきなど、出来る事を手伝っていただいている。		